



年 組 名前

道新で
ワークシート

道「観光税」検討へ

外国人客向け環境整備

道は、観光振興の財源確保を目指し、法定外目的税である「観光税」の導入について検討する方針を固めた。急増する外国人観光客の受け入れのための環境整備などに充てることを想定し、課税対象や導入時期も含めて協議する。実現すれば道内では初となる。

法定外目的税は自治体の新たな財源確保のため、2000年施行の地方分権一括法で新設された。東京都や大阪府はホテルや旅館の宿泊客に課税する「宿泊税」を導入。宿泊料金や条件に応じて1人1泊100～300円を課税している。道はこれら先行例を参考に具体的な内容を検討する。

道内を訪れる観光客は12年度から4年連続で増えており、15年度は5477万人と1997年の統計開始以来、最高を記録。このうち外国人観光客は208万人で初めて200万人を突破した。道は2020年をめどに年間500万人の外国人来道を目指して掲げている。

17年度一般会計予算案で、道は観光分野に過去最高の20億5千万円を計上したが、受け入れ態勢には、多言語の案内板設置や通訳案内士の育成、無料公衆無線LAN「WiFi（ワイファイ）」の整備など多くの課題がある。一方、財政は依然厳しい状況が続いており、道は新税導入で自主財源を確保したい考えだ。

ただ、観光税導入は観光客数の増加に水を差す懸念もあり、一部に反対論もある。道は道議会や観光業界の意向なども慎重に見極め、導入の可否を判断する。道内では釧路管内弟子屈町が摩周湖の立ち入りに「観光税」、檜山管内奥尻町が「入島税」を検討する動きがあったが、住民や観光関係者らの異論もあり実現していない。道は06年に道内初の法定外目的税として、産業廃棄物減量などが目的の循環資源利用促進税（循環税）を導入している。

2017年3月2日朝刊1面

①外国人観光客の受け入れ態勢について、どのような整備が必要か、記事から書き抜きなさい。

②「観光税」の導入について、一部の人が反対する理由を考えてみましょう。